



学校だより

令和4年9月30日

ひびき 10月号

昭和54年3月3日制定

横浜市立獅子ヶ谷小学校

「育児の四則」

児童支援専任 金井 明美

陽ざしの伸びや涼やかな風に、秋の深まりを感じる季節となりました。とはいえ、日中はまだ暑さを感じる日もあり、熱中症の予防には、引き続き気を付けていきたいところです。

10月は、29日に運動会を予定しています。まだ制限下ではありますが、久しぶりに全学年で徒競走や演技を見合うことができることになり、子どもたちも張り切って練習に取り組んでいます。当日は、保護者の皆様には入れ替わり制でご不便をおかけしますが、どうぞ温かい拍手をよろしく願います。

さて、私たち教員は、学習指導だけでなく、子どもたちが学校生活で困らないように、友達との関わり方や、安全・安心に過ごすための工夫などの指導・支援が欠かせません。そのための研修に参加したときに印象的だったのが「育児の四則」です。

乳児はしっかり抱いて、肌を離すな
幼児は肌を離しても、手を離すな
児童は手を離しても、目を離すな
青少年は目を離しても、心を離すな

私自身はどうに育児を終えた身ですが、自分はそうできていただろうかと振り返ってみたものでした。まさに今、育児に関わっていらっしゃる保護者の皆様のヒントになればとご紹介させていただきました。スキンシップや見守りはどの時期まで必要なのか、というときの目安にしていただけたいと思います。

どんな時代も子育てに悩みはつきもので、誰かに相談したくなることがあります。学校に関する悩み事であれば、担任や学年主任、または、児童支援専任にご相談ください。家庭での育児の困り感があれば、学校カウンセラーの利用をおすすめします。学校に相談しづらいときは、区役所の「こども家庭支援課」でも親身に相談に乗ってもらえます。また、中央児童相談所にも育児の相談窓口があり、それぞれの相談窓口では、相談内容に合わせて、様々な相談機関にお繋ぎすることもできますので、どうぞご家庭で抱え込まずに、まずはお電話で気軽に問い合わせしてみてください。いろんな専門機関の支援をもらいながら、保護者としての引き出しを増やしていくとよいと思います。

今月は、前期と後期の変わり目という、子どもたちにとっては、新たな目標を立ててスタートを切る大切な時期です。子どもたちの様子を見ていますと、朝のスタートがうまくいくと、一日元気に過ごせるようです。毎朝安心して「行ってきます！」と元気よく登校できますよう、子どもの体の成長と心の安定に欠かせない、たっぷりの睡眠とバランスの良い食事を、今月もどうぞよろしくお願いいたします。